

第7回 ヘルスケアイノベーションコース オフィシャルミーティング 「分野横断の「繋ぐ」に挑戦」開催報告

開催日時：2024年8月17日(土)13:00~17:40(受付12:30~)

開催場所：高知大学医学部 実習棟3階第二講義室

開催形式：ハイブリッド形式(参集+オンライン同期型+期間限定見逃配信)

参加費：無料

主催：高知大学医学部 連繋医工学分野

参加数：68名(参集:25、オンライン同期型:13、期間限定見逃配信:30)

開催概要

このミーティングは、当大学院修士課程医科学専攻に2021年4月に開設したヘルスケアイノベーションコースのPRと成果報告を目的として年2回実施している。第7回は、SIP研究開発テーマ「共創的实践で社会を変革する博士人材育成プログラム—大学院リーグのプロトタイプと実装」に関するミーティングとして実施した。

最初のセッションとして、大学院リーグに所属する宇都宮大学、北陸先端科学技術大学(JAIST)からご講演いただいた。まず、宇都宮大学の吉澤史昭副学長より「地方創生における Doctor of Philosophy(Ph.D.)の創造」というテーマで講演していただいた。講演では、真のPh.D.とは、「教養」を身につけつつ、専門分野に特化した知識と技術を持つ人物であると説明された。また、「教養」とは、自己の人生哲学や守るべき価値観を支える知的な基盤であり、時代がどれほど変わっても、「学び続けること」「考えること」「判断すること」「行動すること」を有意義に支えるものであると述べられた。一方で、「知識があること」よりも「その知識を用いて何を考えるか」、さらには「議論を通じて行動に移すこと」がはるかに重要であるという指摘もあった。重要なのは、知識そのものではなく、知識を基に思考し、他者と議論し、最終的に自ら判断して行動に結びつけることである。そのためには、「質の高い思考技術(および思考の体力)」が必要であり、大学院はそれを習得する場である。つまり、「良き思考者(Good Thinker)」になることが、Ph.D.取得者となることを意味すると述べられた。また、宇都宮大学のニューフロンティアプログラムに関する説明、および大学院リーグで取り組もうとしていることの説明があった。

次に、JAISTの白肌教授より「知識科学が創出するインテリジェンス:『学術研究』と『社会実装』」というタイトルで講演していただいた。講演ではまず、「知識科学」とは何かという点について、知の哲学的探求から始まり、現実世界における実践知を通じた価値創造に至るまで、あらゆる「知」に関連するプロセスの解明と、その応用・実践を対象とする学問であると説明された。次に、次世代の知識経営について、人類のための知識創造や、Well-Being社会の構築を目指すべきだと強調された。そのためには、各自がどのような目標を持ち、どのような共通善や共通価値を磨いていくべきかを考え直すことが重要であると述べた。企業は自社の利益だけでなく、地域社会や消費者のWell-Beingにどのような意義が

あるかを再評価する「ハーパス経営」が求められると指摘された。また、社会実装に関する言葉が多く使われるが、実は「研究の中に社会実装を入れる」という考え方には問題があるとのこと。認知科学の研究では、斬新な構想を生み出す際に、実装のことを考えるべきではないとされている。構想立案と実装は分けて考える必要があり、これが研究の結果として示されている。しかし、現在の社会はさまざまな実装を求めており、研究者が実装を過度に意識すると、発想が陳腐化しやすいとも指摘された。社会を観察すれば多くの具体例が存在しており、これらを逆算的に学ぶ必要があるかもしれない。さらに、Well-Beingを実感し、追求できる社会を構築するためには、行動変容を促す知識経営が不可欠であり、そのためには「価値づくり」をいかにデザインできるかが重要である。価値づくりをデザインできる知能が求められるという点が強調された。石川県能美市の事例では、買い物弱者を支援する活動が取り上げられた。サービスの場が創られることで、参加者が知識を活用し合い、Well-Beingの形成が行われている。修士・博士課程の学生にとって、このような「価値のデザイン」をいかに実現するかが重要であると述べられた。次のセッションでは、令和5年度ヘルスケアイノベーションコース修了生(2期生)の講演が行われた。まず、関西医科大学附属病院の岸田麻衣さんより「ヘルスケアイノベーションから学んだ『連携力』」というタイトルで講演していただいた。看護師として勤務しながら、当コースでどのようなことを学んだかについて説明していただき、さらに修士論文で取り組んだ看護教育に関する研究内容についても紹介していただいた。

次に、高知大学医学部附属病院次世代医療創造センターの飯島寛子さんより「ヘルスケアイノベーションコースから博士への道」というタイトルで講演していただいた。薬剤師として企業で働きながら、大学にも所属し、当コースでどのような学びがあったかについて説明していただいた。また、今春、博士課程に進学した経緯や、自身に取り組んでいるDCT(Decentralized Clinical Trial:分散型臨床試験)に関する研究について説明していただいた。

最後のセッションでは、本学のSIPの取り組みとして、教育学部の矢野宏光教授より「アスリート・指導者教育から学ぶ、研究者のアンガーマネジメント」というタイトルで講演していただいた。日本におけるメンタルトレーニング指導者の不足を指摘し、例としてパリオリンピックの男子体操団の鉄棒競技を取り上げ、メンタルトレーニングの重要性が述べられた。さらに、怒りの感情と上手に付き合うためのアンガーマネジメント、パフォーマンス向上を目指すためのアスリートコーチングの両立が重要であると述べた。さらに、この考え方を大学院教育に取り入れれば、学生の心身の健全化やパフォーマンスの向上にも寄与できることが述べられた。



宇都宮大 吉澤先生



JAIST 白肌先生